



江 渡 信 貴
(自民公明クラブ)

ふるさと納税の寄附増額を

新たな取組を検討

問 ふるさと納税の寄附増額に向けた取組は。

答 全国的にニーズがある肉や米など強みを生かした特色ある返礼品の充実を図るとともに、市と寄附者をつなぐ中間事業者の有効活用や積極的な情報発信など新たな取組を検討します。

問 クラウドファンディング型ふるさと納税制度を活用する考えは。

答 本制度は、自治体が抱える課題解決のために寄附金の使い道を示して募るもので、事業のPRや新たな財源確保が可能となる一方で、目標額に達しない可能性や資金調達まで時間を要するというデメリットもあります。また、寄附者に訴えかける市特有の課題抽出と綿密なストーリーづくりが求められるため、先進事例を参考に、慎重に検討を進める必要があると考えています。

問 企業が自治体の地方創生の取組に対し寄附を行うことで、企業価値の向上や寄附額の約9割の法人関係税が軽減される企業版ふるさと納税の現状と今後の考えは。

答 平成29年度から令和6年度までに、冬季観光充実事業に2社から計6,000万円、移住・定住施策や子育て支援等に11社から計430万円の寄附をいただいています。今後、さらなるPRのため、民間の企業版ふるさと納税ポータルサイトの活用や、市にゆかりのある企業への働きかけなど有効な手段を検討し、地方創生を推進するための財源として、企業版ふるさと納税の確保に努めます。

問 ふるさと納税係を新設する考えは。

答 取組を拡充していくため、担当職員の増員を含めた体制の見直しが必要であり、笑顔あふれる十和田市の実現に向け、全庁的な視点で、組織体制の見直しを検討していきます。



中 尾 利 香
(自民公明クラブ)

春まつりの官庁街通りで 物産販売を

実施に向け協議を進める

問 市の特産物や魅力を直接PRし、消費につなげるため、春まつり期間中に官庁街通りで物産品を販売できないか。

答 多くの来訪者がある春まつり会場で物産品の販売を行うことは、PRの面で効果的であり、地域経済の活性化につながることから、実施に向け具体的な協議を進めていきます。

問 中央病院で毎年10月の第3日曜日に実施している乳がん検診「マンモサンデー」の受診者数と検査体制は。

答 過去5年間の受診者数の平均は20名で、マンモサンデーを含む当病院の乳がん検査は、全て女性の技師が行っており、安心して気兼ねなく検査を受けられる体制を整えています。

問 結婚支援事業の新たな取組とその効果は。

答 令和7年度から新たにあおもりマッチングシステムの新規登録料の半額補助を開始しているほか、定住自立圏の婚活イベントでは、開催数を年2回に増やし、うち1回は十和田湖で遊覧船を活用した新たな婚活イベントを企画しています。また、昨年度初めて行ったウェブ広告により事業利用者が増えたことから、今年度も引き続きウェブ広告を活用するとともに、広報誌やSNSなどあらゆる媒体を活用し周知に努め、支援を進めていきたいと考えています。

問 様々な障がいの特性を学び、手助けしていく取組「あいサポート運動」の輪が広がっているが、市の認識は。

答 共生社会、ダイバーシティ社会の形成に効果的なため、他の自治体の活動を調査しつつ、速やかな実施に向け取り組んでいきます。